

図 3-24 巢山古墳外堤丈量図

[原寸より 1500 分 1 に縮小]

第5節 指定地の現状

1. 土地所有・管理

(1) 土地所有と施設管理

特別史跡となった昭和27年(1952)3月以後も墳丘は個人が所有していたが、【第4節2. 公有化の経過】で述べたように、墳丘、外堤は公有化によって広陵町有地となっている。周濠は現在も灌漑用溜池(アシ池)として使われていることから、周濠部分の土地の所有者は斉音寺区、アシ池の水利権は斉音寺区水利組合が所有している。また、外堤に設置されている樋門については水利組合が所有・管理している。

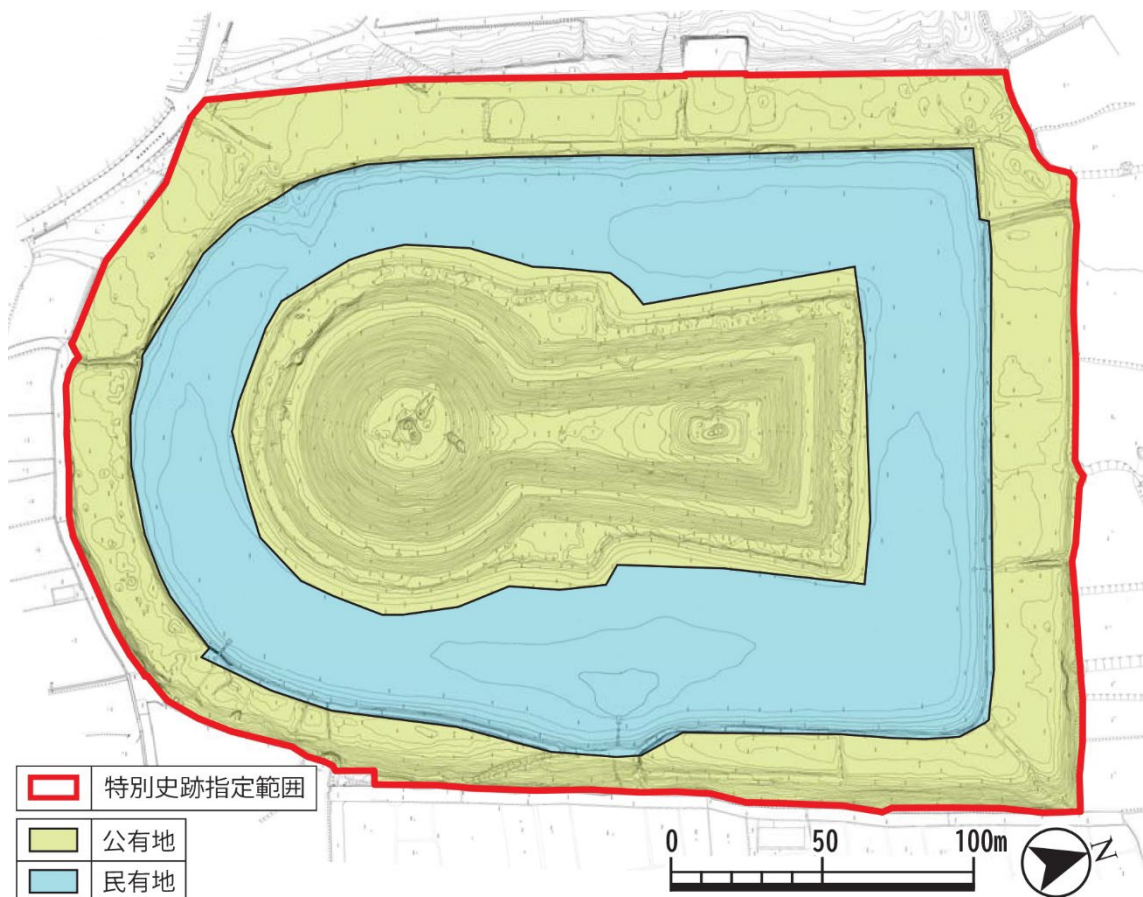


図 3-25 土地所有図

[出典：地籍図を基に平成9年度測量図を加工して作成]

(2) 維持管理

遺構の保存を目的として、定期的に草刈り等を実施している。墳丘内の草刈りを広陵古文化会に委託しており、墳丘第一段テラスを中心に1～2ヶ月毎に実施している。外堤についてはシルバー人材センターに草刈りと植栽内除草を委託しており、北側斜面・東側斜面・南側斜面と範囲を区切り年3回に分けて実施している。

2. 調査と整備の現状

(1) 調査状況

1) 地形測量

平成9年(1997)度に特別史跡指定範囲を対象とした地形測量を行った。測量は縮尺1/200で等高線は25cm間隔で行い、図面にはクスノキ・モチノキ等の大木と墳丘第一段の崖面に残る円筒埴輪の位置を計測している。

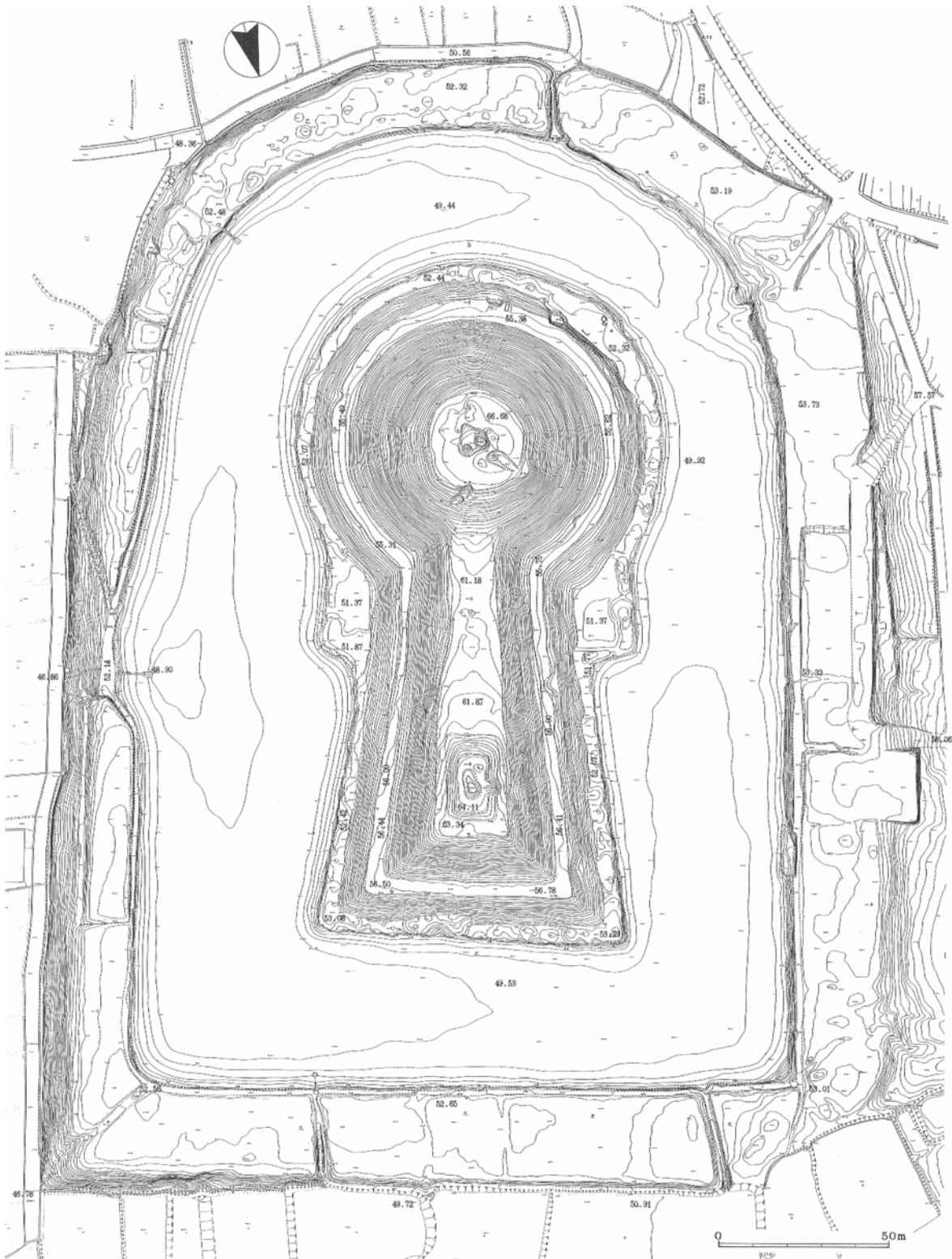


図 3-26 巢山古墳測量図



図3-27 測量調査で確認された埴輪列(前方部)



図3-28 測量調査で確認された埴輪列(後円部)

2) 毎木調査

①平成9年(1997)の地形測量以前の状況

明治26年(1893)の「大和国古墳墓取調書」掲載絵図(図3-2)には墳丘にクスノキともみられる大木が3本見え、その周囲には丈の低い雑木かタケ等の疎林となり墳丘形態がよく分かる。また、外堤丘陵側はマツ林が描かれている。その後の大正末期頃(1920年代)の『奈良県に於ける指定史蹟』掲載写真(図3-6)からは全体が竹林に覆われていた様子が見える。

平成9年(1997)度に行った地形測量(図3-24)の際は、墳丘にモウソウチクが密生し、人が立ち入ることも不可能な状態で、段築も目視できるような状態ではなかった。このため広陵古文化会の協力を得て、密生する竹林部分の伐採を行っている。なおタケ以外の既存樹木の伐採は行わず、測量に支障のある枝を取り除く程度にとどめた。

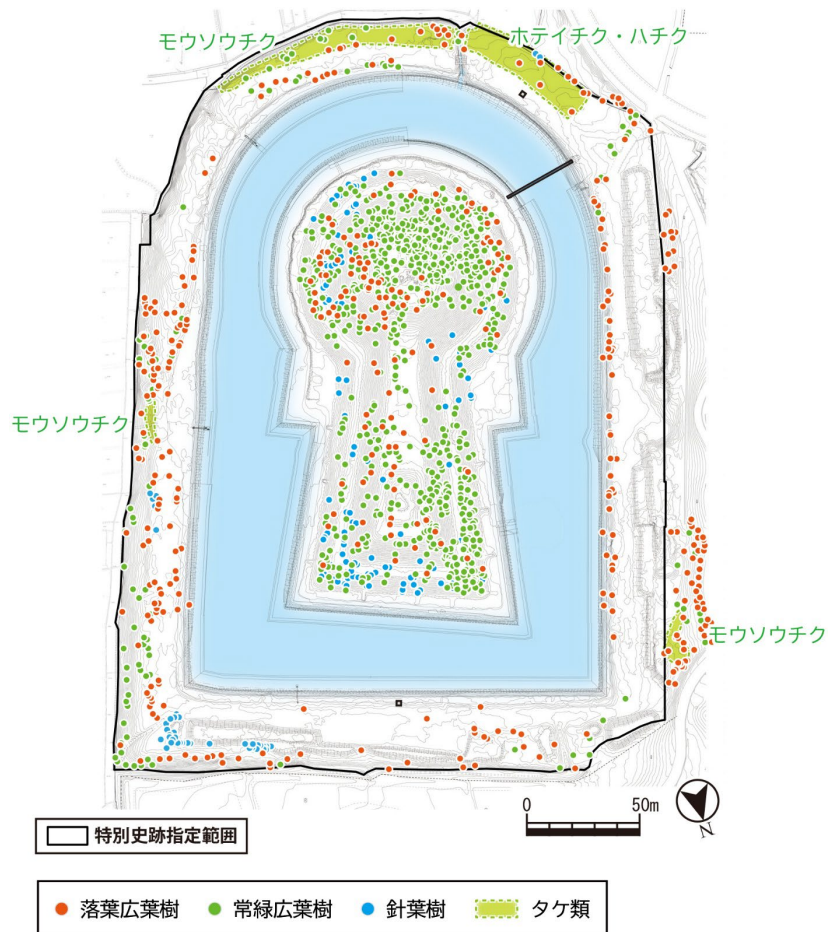


図3-29 樹木プロット図 [出典：平成9年度測量図を加工して作成]

②墳丘部調査(平成16年(2004)度)

墳丘上に生育する樹木の取り扱いを検討するために、墳丘部分の毎木調査を平成16年度に行った。幹回りが30cm以上の樹木を調査対象とし、位置を平面図にプロットして管理番号を付した。

さらに、樹種の判定と計測(樹高・幹回り・樹幹)結果を毎木調査票としてリストにまとめた。

墳丘部に育成する樹木は全部で1091本あり、このうち845本が落葉広葉樹であった。

③外堤調査(令和5年(2023)度)

外堤に生育する樹木について測量図に樹木位置をプロットし、樹種、枝振り、衰退度等の毎木調査を実施した。

外堤に生育する樹木は全部で460本あった。このうち303本が落葉広葉樹で、一番多い樹種はクヌギ(61本)でその次にコナラ(45本)である。

樹高は6m~7mのものが一番多く68本で、20m以上の樹木は5本と少なかった。25mを超えるものはなかった。

3) 発掘調査

巢山古墳は周濠が灌漑用溜池として古くから利用され、水位変動や風波によって墳丘裾や外堤裾が侵食を受け大きく削られていた。墳丘西側の侵食崖面には、墳丘第一段テラスに樹立された埴輪列が露出し、確認できる個体数は約50基あった。墳丘東側はすでに埴輪列が崩落した状態にあり、早急な保存整備の必要に迫られていた。そこで平成9年(1997)度に指定地全体の地形測量を行い、発掘調査は平成12年(2000)度から開始した。第1次調査では当初の墳丘規模が全長約220mであることが判明した。第2次調査では前方部北西隅から木製鋤、周濠北西隅から靱形木製品が出土した。第3・4次調査は周濠泥土の浚渫工事中に発見された出島状遺構を調査した。第5次調査は周濠北東隅から準構造船の舷側板や縦板が出土した。第6次調査は前方部前面を調査した。第7次調査は前方部西側と周濠北東隅を調査した。第8・9次調査は外堤北側を調査した。第10次調査は外堤北西隅から西側中央付近までを調査した。第11次調査は前方部北東角から前方部東側墳丘裾を調査した。第12次調査は前方部西側、前方部東側、東側外堤を調査した。第13次調査は後円部西側、外堤西側を調査した。第14次調査は後円部西側、外堤西側を調査し、前方部第一段平坦面の盛土を撤去した。第15次調査は東側造出と東側外堤を調査した。第16・17・18・19次調査は後円部東半、東側外堤を調査した。第20~22次調査は後円部南東を調査した。第23次調査は埋葬施設の地中レーダー探査、後円部第一段の盛土、レンガの竈、井戸枠の撤去を行った。第24次調査は後円部と前方部の盗掘孔の精査と埋め戻しを行った。

各年度の調査範囲を図3-30に示す。

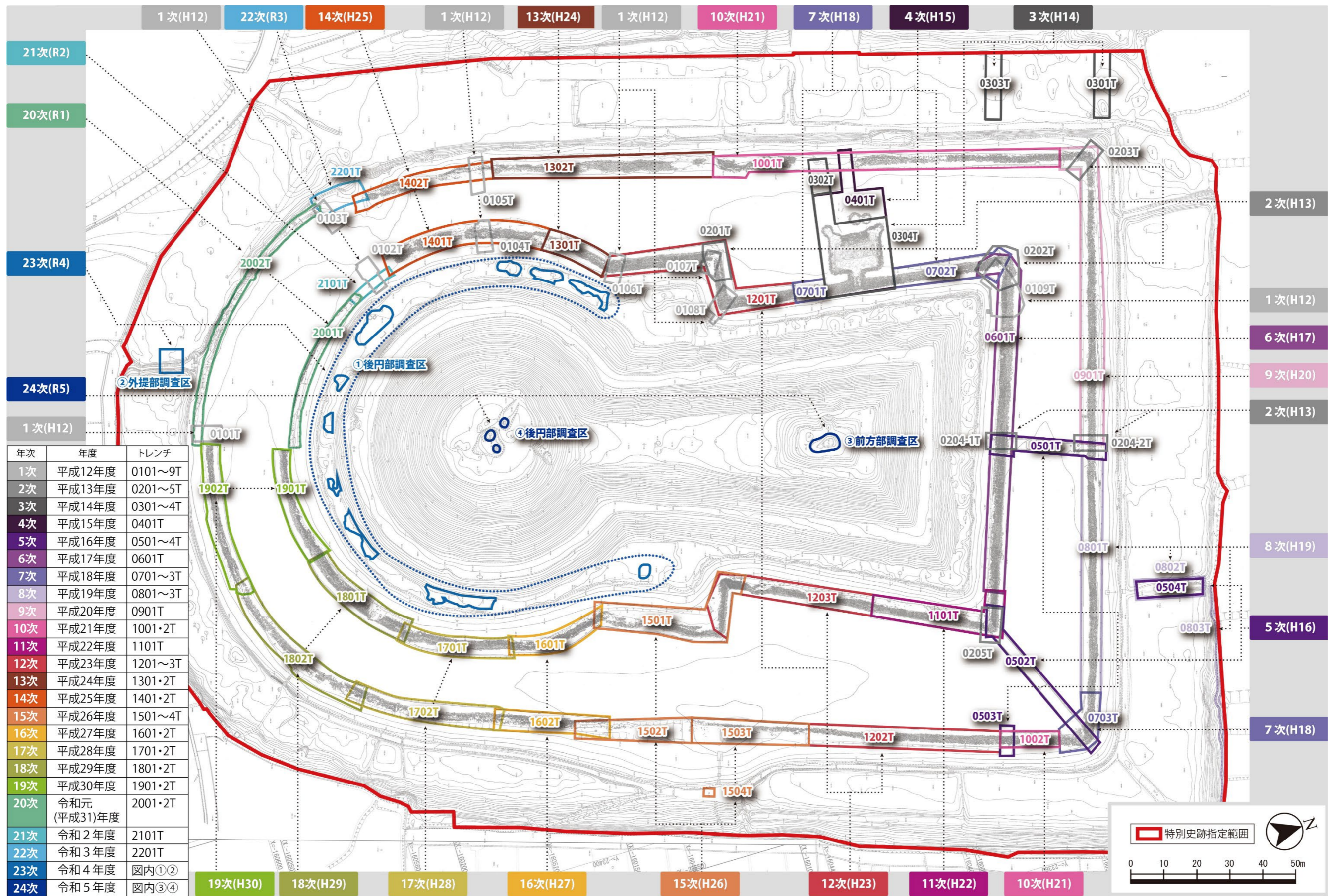


図3-30 年度別発掘調査箇所図

[出典：平成9年度測量図を加工して作成]

4) その他の調査

①アシ池の耐震性調査(令和4年(2022)度)

ため池防災対策調査計画事業の一環として、被災した場合に下流への影響が大きいため池において、レベル1地震に対する耐震診断を行った。また、照査を行うにあたり必要となる土質・地質調査及び測量を行った。

②築山古墳墳頂部地中レーダー探査(令和4(2022)年度)

『特別史跡築山古墳整備基本計画』に基づき、後円部墳頂と前方部墳頂の地中レーダー探査を行い、竪穴式石室を詳細に把握するために、精密な地中データを取得することを目的として実施した。埋葬施設(竪穴式石室)探査では、既往の探査事例と比較すると不明瞭な結果となった。この原因は、石室を構成する石材が電磁波の減衰が顕著な“凝灰岩”であることに起因する可能性が高いこと、および盗掘や発掘調査によって石室周辺の土層が乱された結果、探査では明瞭な記録が得られなかったと考えられる。

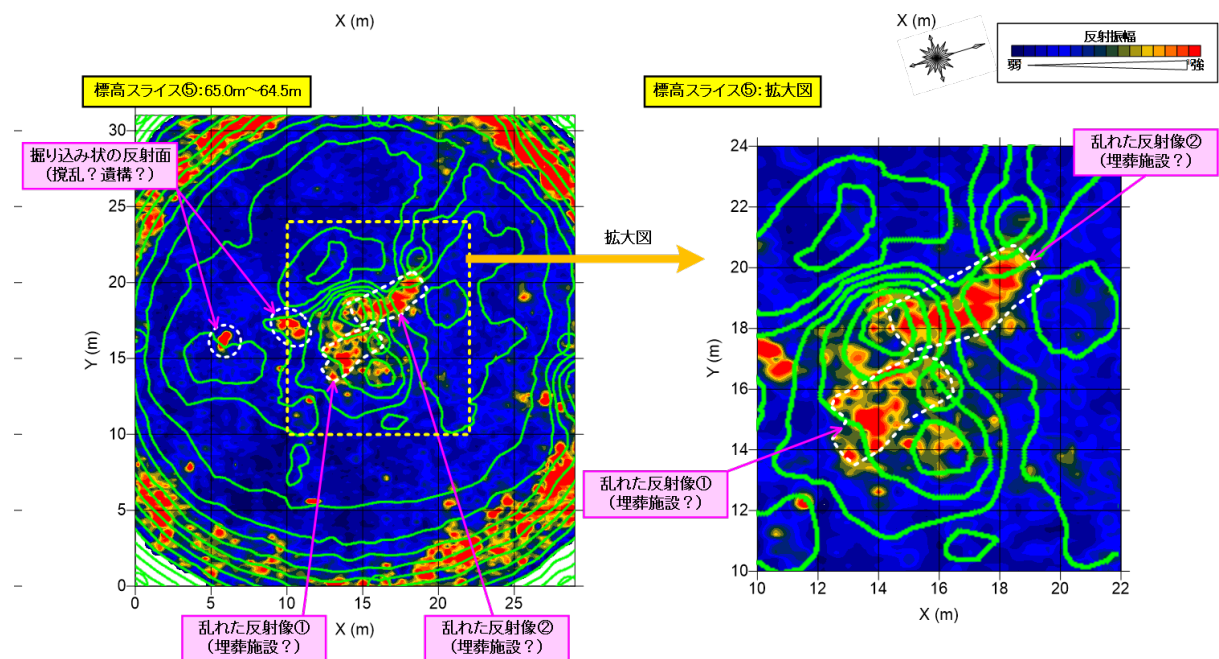


図 3-31 後円部墳頂地中探査レーダー写真

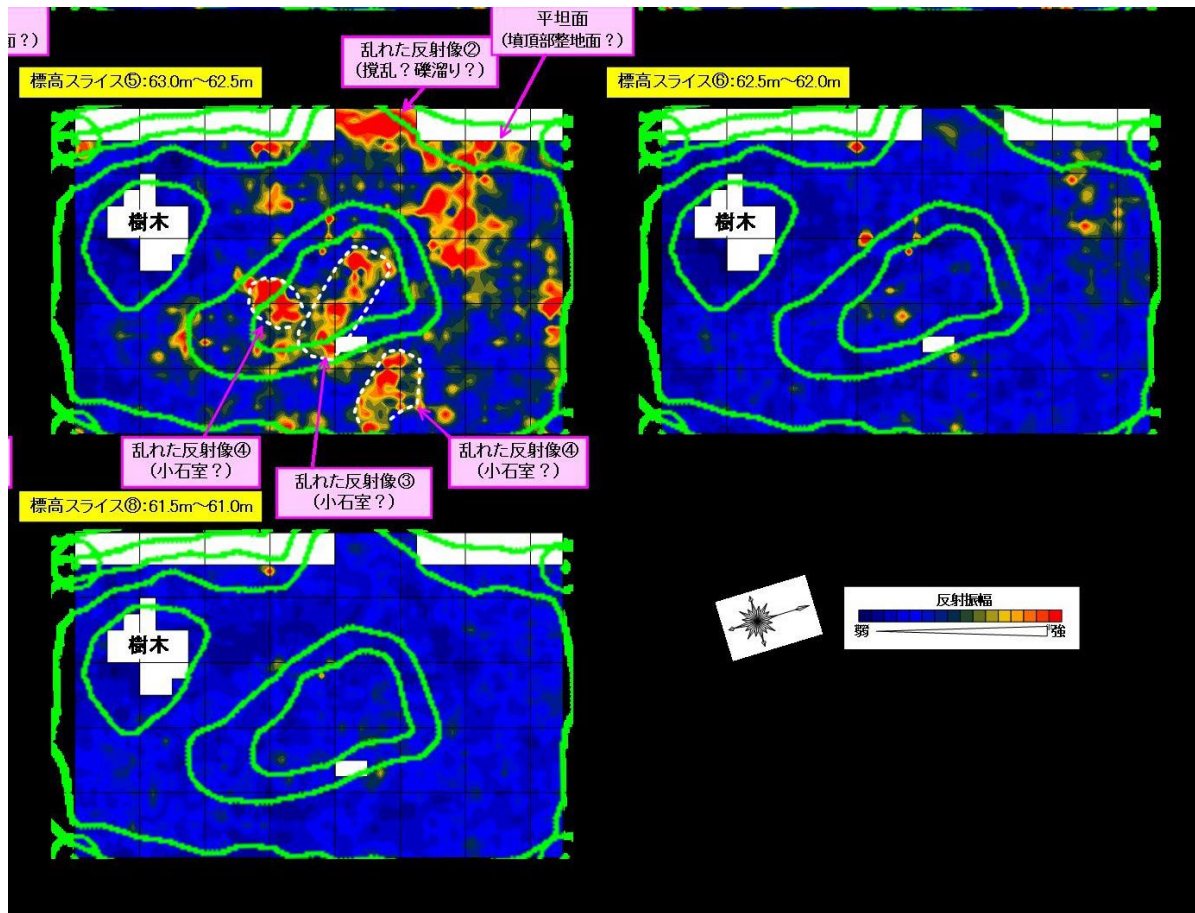


図 3-32 前方部墳頂地中探査レーダー写真

(2) 整備状況

墳丘および外堤の緊急保存措置は、平成12年(2000)度から準備作業に着手して、平成14年(2002)度から本格的な遺構保存整備工事に取りかかった。これに先立ち12年(2000)度に巢山古墳整備基本構想を策定し、翌年度には整備基本設計を実施した。基本設計では外堤における活用を目的とした整備内容についても、その方向性を示し、平成19年(2007)度までに整備を完了させる事業計画としていた。しかし、年度毎の事業規模の縮小や発掘調査範囲の拡大等により、現在も整備を継続中である。

これまでに墳丘裾の護岸工事は完了し、外堤についても護岸整備により外堤裾の侵食防止対策は概ね終了している。周濠部については護岸整備に伴い濠底泥土の浚渫が完了している。既存の築堤は令和4(2022)～6年(2024)度で撤去し、外堤西側に仮置きしていた護岸整備に伴う浚渫土は令和4年(2022)度より順次撤去中で、令和7年(2025)度には完了する予定である。令和6年(2024)度に周濠部に設置した維持管理用の仮設橋は、イベント時の活用も想定している。

なお、後円部に残存していた旧民家関連の工作物は令和4年度に撤去した。

樹木に関しては、埋葬施設の保存に悪影響のあるクスノキの巨木は伐採し場外処分し、段築が外堤及び周辺から観察できるよう墳丘樹木を伐採・剪定するなどしている。外堤では竹林の間伐などを行っている((3)年度別発掘調査・整備一覧参照)。

今後は墳丘形態や規模、発掘調査により検出した出島状遺構等を解説するサイン、周遊可能な園路やベンチといった史跡公園として必要な整備を行うこととしている。また、隣接する竹取公園や県営馬見丘陵公園との有機的な連携を図る上で必要なサイン等諸施設の整備も予定している。

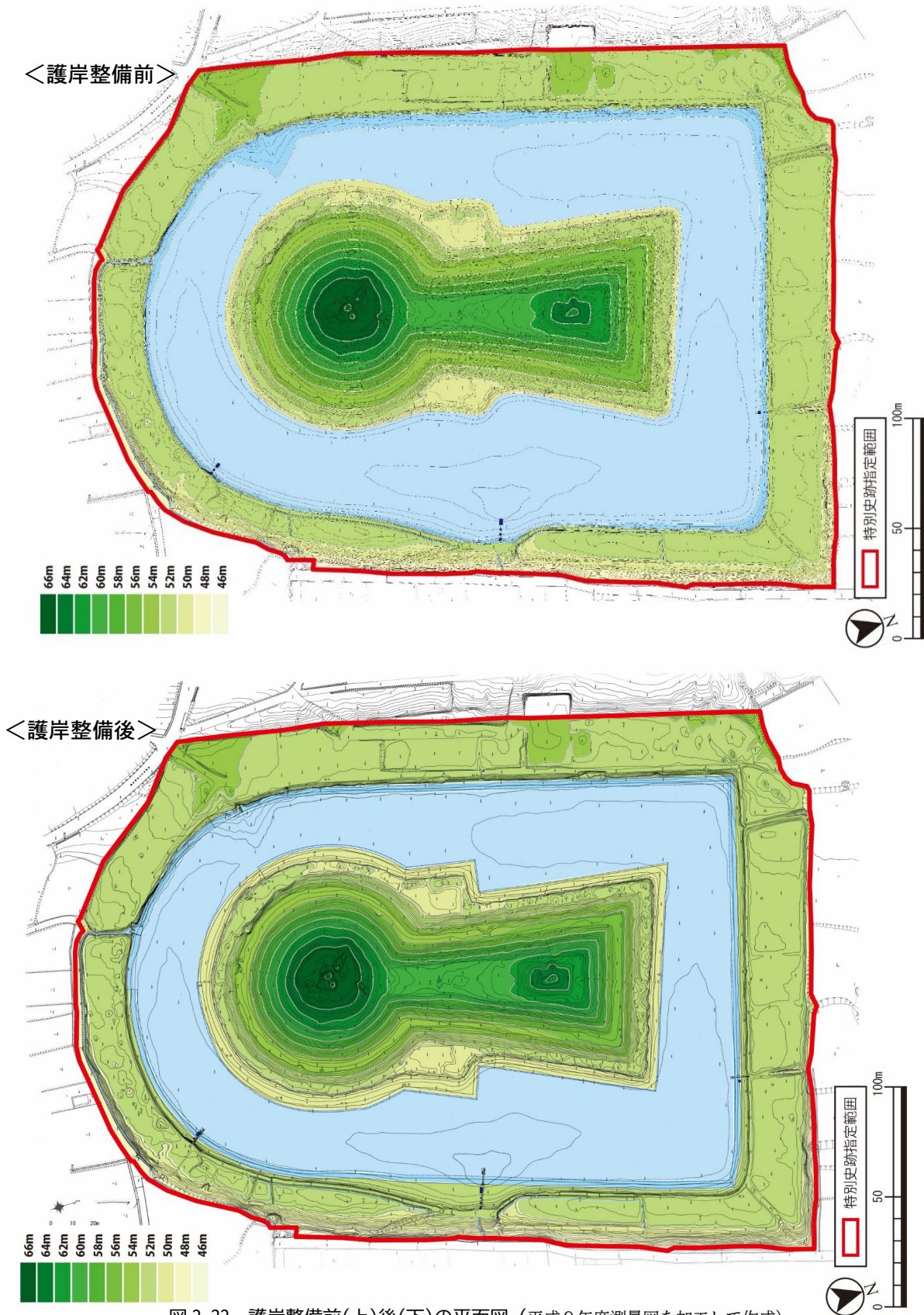


図3-33 護岸整備前(上)後(下)の平面図 (平成9年度測量図を加工して作成)

古くから周濠を灌漑用のため池として利用してきたことから、水位変動により墳丘裾部と外堤裾部が侵食を受け、汀が大きく後退していたが、護岸整備により墳丘および外堤の輪郭がはっきりした。

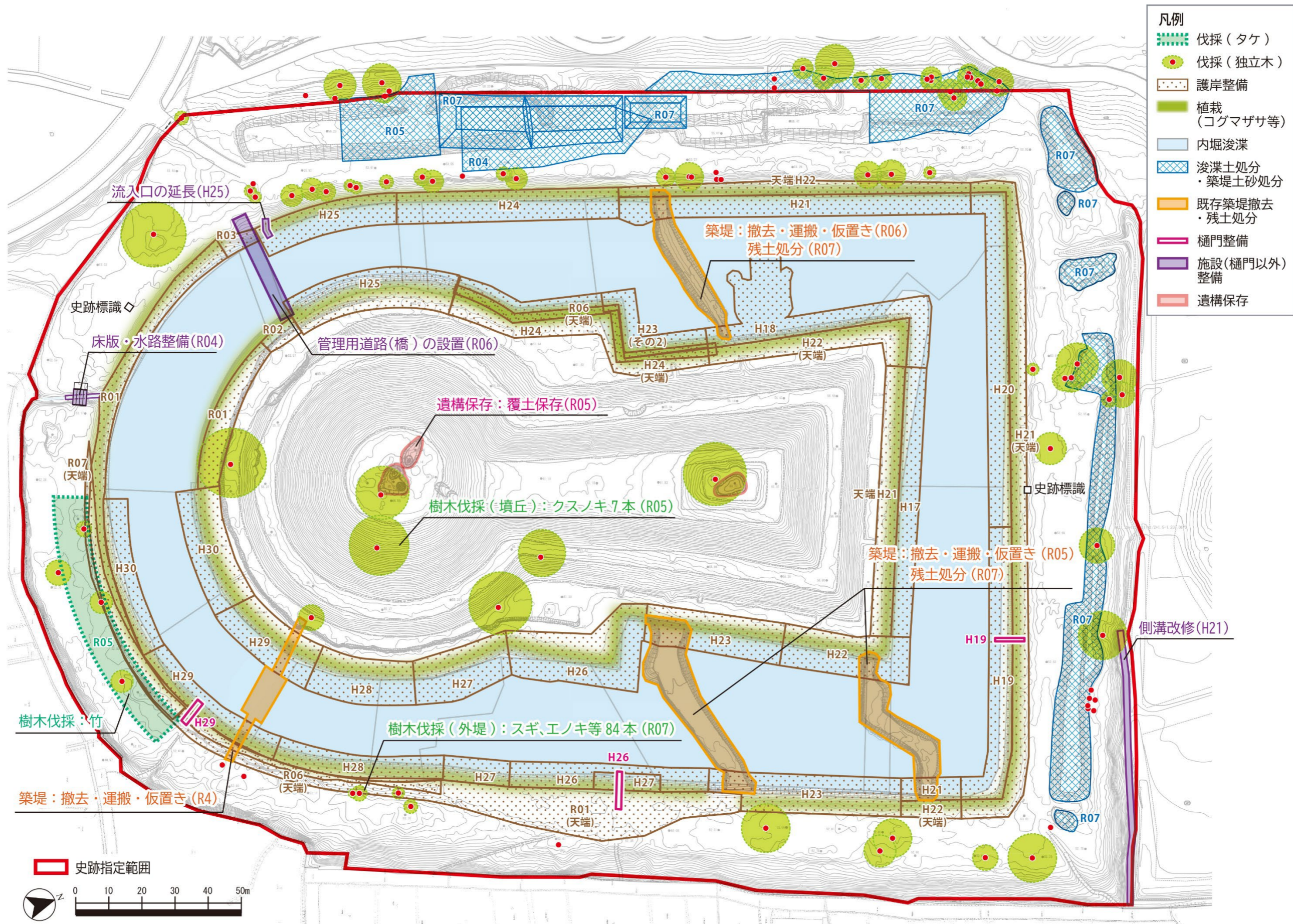


図 3-34 年度別整備箇所図

[出典:平成9年度測量図を加工して作成]

(3) 年度別発掘調査・整備一覧

これまでの国庫補助事業による年度別の整備概要（整備のための調査含む）は以下の通りである。

表 3-6 年度別発掘調査・整備一覧

年度	整備箇所	整備内容	整備費 (千円)	調査費 (千円)	実施設計 監理費 (千円)	総事業費 (千円)
H12 (2000)	外堤部	樹木伐採	4,116	5,884	-	10,000
	墳丘部	樹木伐採				
H13	周濠部	仮設道路設置、築堤設置	10,290	9,710	-	20,000
H14 (2002)	外堤部	樹木伐採	12,000	7,323	677	20,000
	周濠部	浚渫				
H15	周濠部	浚渫、残土処分	14,527	4,703	770	20,000
H16	周濠部	浚渫、残土処分	13,365	5,963	672	20,000
H17 (2005)	周濠部	残土処分、築堤設置	11,948	7,380	672	20,000
	墳丘部	護岸整備(張り、多段)				
H18	墳丘部	護岸整備(張り、多段)、出島遺構保護	11,886	3,484	630	16,000
H19	外堤部	護岸整備(張り、多段)、農業施設	14,030	4,090	630	18,750
	墳丘部	護岸整備(張り、多段)				
H20 (2008)	外堤部	護岸整備(張り、多段)	17,447	4,910	643	23,000
	墳丘部	木製品保存処理				
H21 (2009)	外堤部	樹木伐採、護岸整備(張り、多段)、ササ保護植栽	37,775	6,025	1,200	45,000
	周濠部	仮設道路設置				
	墳丘部	ササ保護植栽				
	墳丘部	木製品保存処理				
H22 (2010)	外堤部	ササ保護植栽	35,357	3,541	1,102	40,000
	周濠部	浚渫、仮設道路設置、築堤設置・撤去				
	墳丘部	護岸整備(張り、多段)、ササ保護植栽				
	墳丘部	木製品保存処理				
H23 (2011)	外堤部	護岸整備(張り、多段)、ササ保護植栽	30,471	7,880	1,649	40,000
	周濠部	浚渫、仮設道路設置、築堤設置・撤去				
	墳丘部	護岸整備(張り、多段)、ササ保護植栽				
	墳丘部	木製品保存処理				
H24 (2012)	外堤部	護岸整備(張り、多段)、ササ保護植栽	24,146	4,825	1,029	30,000
	周濠部	築堤設置・撤去				
	墳丘部	護岸整備(張り、多段)、ササ保護植栽				
	墳丘部	木製品保存処理				
H25 (2013)	外堤部	護岸整備(張り、多段)、ササ保護植栽	37,650	7,143	1,207	46,000
	周濠部	浚渫、仮設道路設置、築堤設置・撤去				
	墳丘部	護岸整備(張り、多段)、ササ保護植栽、改変部復旧				
	墳丘部	木製品保存処理				

年度	整備箇所	整備内容	整備費 (千円)	調査費 (千円)	実施設計 監理費 (千円)	総事業費 (千円)
H26 (2014)	外堤部	護岸整備(張り、多段)、農業施設	27,476	8,726	1,058	37,260
	周濠部	浚渫、埋戻し、仮設道路設置、築堤設置・撤去				
	墳丘部	護岸整備(張り、多段)				
	木製品保存処理					
H27 (2015)	外堤部	護岸整備(張り、多段)、ササ保護植栽	22,010	6,802	1,188	30,000
	周濠部	浚渫、埋戻し、仮設道路設置				
	墳丘部	護岸整備(張り、多段)、ササ保護植栽				
H28 (2016)	外堤部	護岸整備(張り、多段)、ササ保護植栽	20,024	2,680	1,296	24,000
	周濠部	浚渫、仮設道路設置				
	墳丘部	護岸整備(張り、多段)、ササ保護植栽				
H29 (2017)	外堤部	護岸整備(張り、多段)	25,344	6,198	1,458	33,000
	周濠部	浚渫、仮設道路設置、築堤撤去				
	墳丘部	護岸整備(張り、多段)、ササ保護植栽				
H30 (2018)	外堤部	護岸整備(張り、多段)	22,011	4,759	1,479	28,249
	周濠部	浚渫、埋戻し、仮設道路設置				
	墳丘部	護岸整備(張り、多段)				
R 1 (2019)	外堤部	護岸整備(多段)	28,611	6,177	1,512	36,300
	周濠部	埋戻し、仮設道路設置、築堤撤去				
	墳丘部	護岸整備(多段)				
R 2	墳丘部	護岸整備(多段)	3,124	2,003	4,873	10,000
R 3 (2021)	外堤部	護岸整備(多段)	23,661	3,416	1,694	28,771
	周濠部	埋戻し、築堤撤去				
R 4	周濠部	埋戻し、築堤撤去	20,053	2,569	1,727	24,349
R 5 (2023)	外堤部	樹木伐採	21,994	-	2,200	24,194
	周濠部	埋戻し、築堤撤去				
	墳丘部	樹木伐採				
R 6 (2024)	外堤部	護岸整備(張り)、施設設置	50,193	-	1,811	52,004
	周濠部	埋戻し、築堤撤去				
R 7 (2025)	外堤部	樹木伐採、施設設置	60,555	-	2,182	62,737
	周濠部	埋戻し、築堤撤去				

3. 指定地及び隣接地の土地利用状況

巢山古墳は、平成12年(2000)度から開始した緊急保存措置以降、安全面から来訪者の立ち入りを制限してきた。馬見丘陵公園から墳丘を見渡すことが出来るが、現在公園と巢山古墳の連絡通路は未開通である。

(1) 指定地の状況

<墳丘部>

墳丘一段目裾の侵食に対して平成12年(2000)度から発掘調査と護岸整備を進めてきた。墳丘二段目および三段目の発掘調査はこれまで行われていない。大正12年(1923)の実測調査時は後円部に2基ある石室の一部を確認することができたが、現状は土砂が堆積して窪地になっている。一段目のテラスには浚渫土を盛り上げた土塊が残されていた。また、後円部には史跡指定後も土地所有者が居住していた時の構造物が残置され、二段目裾が大きく削平されたままとっていた。全体的に樹木が密生し、大きく生育しているものが多数ある。遺構の保存および墳丘段築の顕在化のために特に巨木化し大きく枝を広げていたクスノキについては伐採したが、墳丘上には現在もクスノキ等巨樹化するものや、スギやヒノキといった針葉樹も多く見られる。

<周濠部>

墳丘を巡る盾形の周濠は満々と水を湛え、現在も灌漑用溜池として利用されている。北と東と南東の外堤側に3か所の樋門があり、斉音寺水利組合が管理している。護岸整備にともない貯水面積が狭くなることから、貯水量を維持するため濠底に堆積していた泥土を撤去した。平成12年(2000)度から開始した護岸整備の実施期間中も灌漑用溜池としての機能を維持するため、仮締め切りを設置して工区毎に整備を進めてきた。現在は周濠内に設置していた築堤は撤去し、南西部に墳丘後円部と対岸の外堤を繋ぐ管理用橋を設置している。

<外堤部>

平成元年(1989)度に追加指定された外堤は、周濠に沿って巡ることができる。墳丘地区と同様に外堤裾の侵食に対して平成12年(2000)度から発掘調査と護岸整備を進めてきた。仮置きしていた護岸整備に伴う浚渫土を順次撤去中であるが、まだ一部が残されている。南西隅で県道132号河合・大和高田線と接している。北面および西面で県営馬見丘陵公園に面していることから、一体的な利用を図るため、行き来を可能とする整備を行う予定である。南西部分にはサクラが生育しているが、樹勢が衰えているものが多い。南側は竹藪となり、北側の両端と東側は樹林地が残り、周濠を挟んで墳丘と一体的な風致景観を形成している。風致景観の維持のため、南側の竹藪の間伐、同範囲内の灌木等の伐採を実施している。南側および北側の周濠側に史跡標柱が設置されているが、園路や広場等の整備はこれからである。



出入口(南西隅部)



出入口(北東隅部)



外堤(南西側)



外堤(西側)



浚渫土



墳丘・周濠(東より北東方向)



外堤部・周濠(東より南東方向)



周濠・墳丘(外堤北東側より)



墳丘(後円部頂上)



史跡標識(手前)・墳丘後円部(奥)



管理用橋



樋門



吉野川分水流入口



馬見丘陵公園より巢山古墳



巢山古墳より馬見丘陵公園

図3-35 指定地現況写真

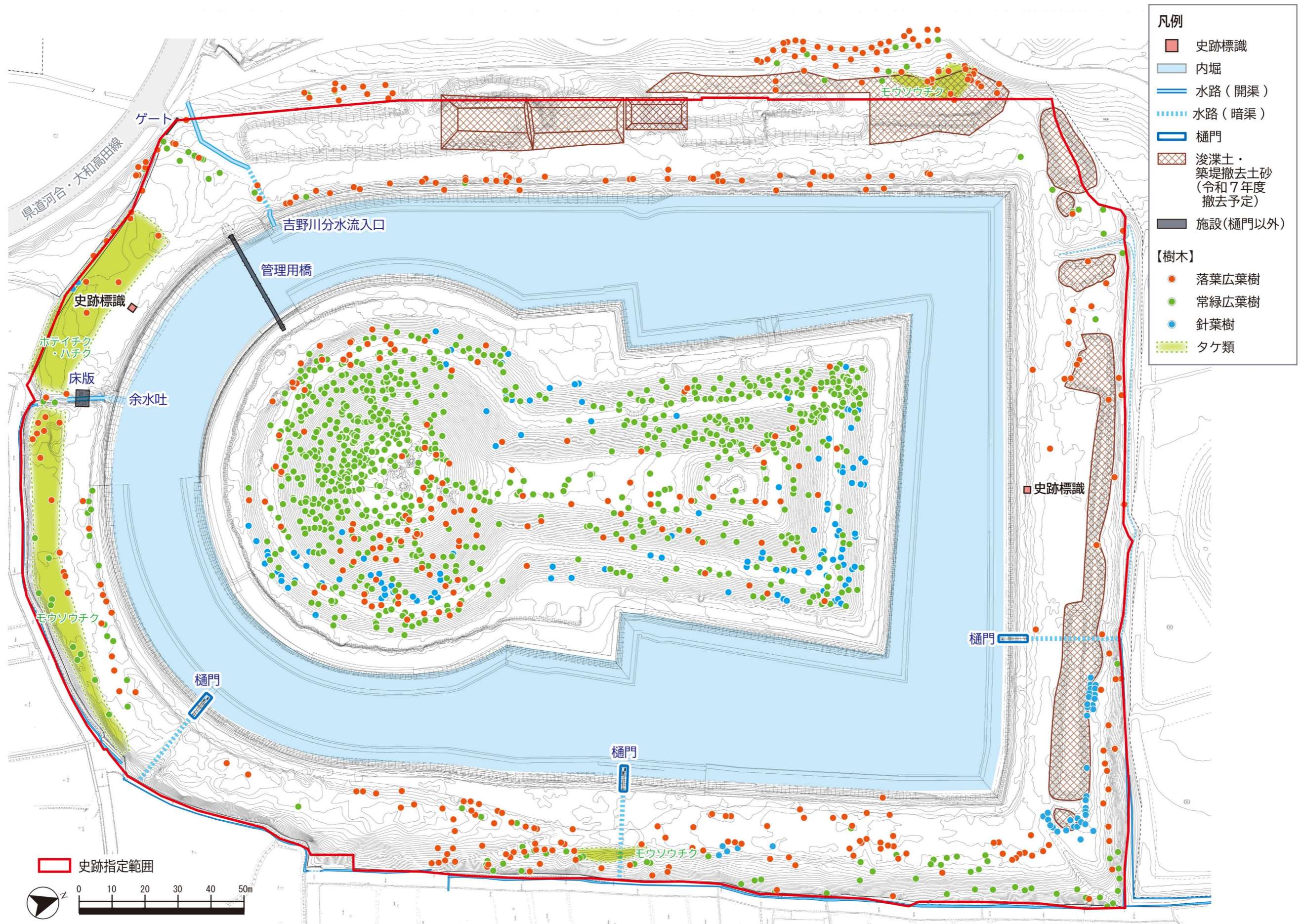


図 3-36 指定地現況図

[出典：平成9年度測量図を加工して作成]

(2) 周辺の状況

特別史跡築山古墳は、北側と西側では奈良県営馬見丘陵公園、東側から南東側にかけては農地、南西部で讃岐神社の森林と接している。また、西側は馬見丘陵公園の南エリアを挟んで広陵町竹取公園とも近接している。

大和平野の農業は吉野川分水の恩恵を受けており、築山古墳周辺の水田も吉野川分水の受益地である。築山古墳の周濠(アシ池)は農業用のため池として利用されており、外堤に設けた樋門の開閉によって周濠の水の利用を調整している。築山古墳の西側、竹取公園入口付近の築山水槽(第5号分水工)は広陵町の地下を走る吉野川分水の水管からそれぞれの農地の面積に合わせた水量を配分する施設で、ここから送られた水が築山古墳の外堤南西側の流入口から周濠へ入り、周辺の農地へ送られる。アシ池の受益面積は15haである。

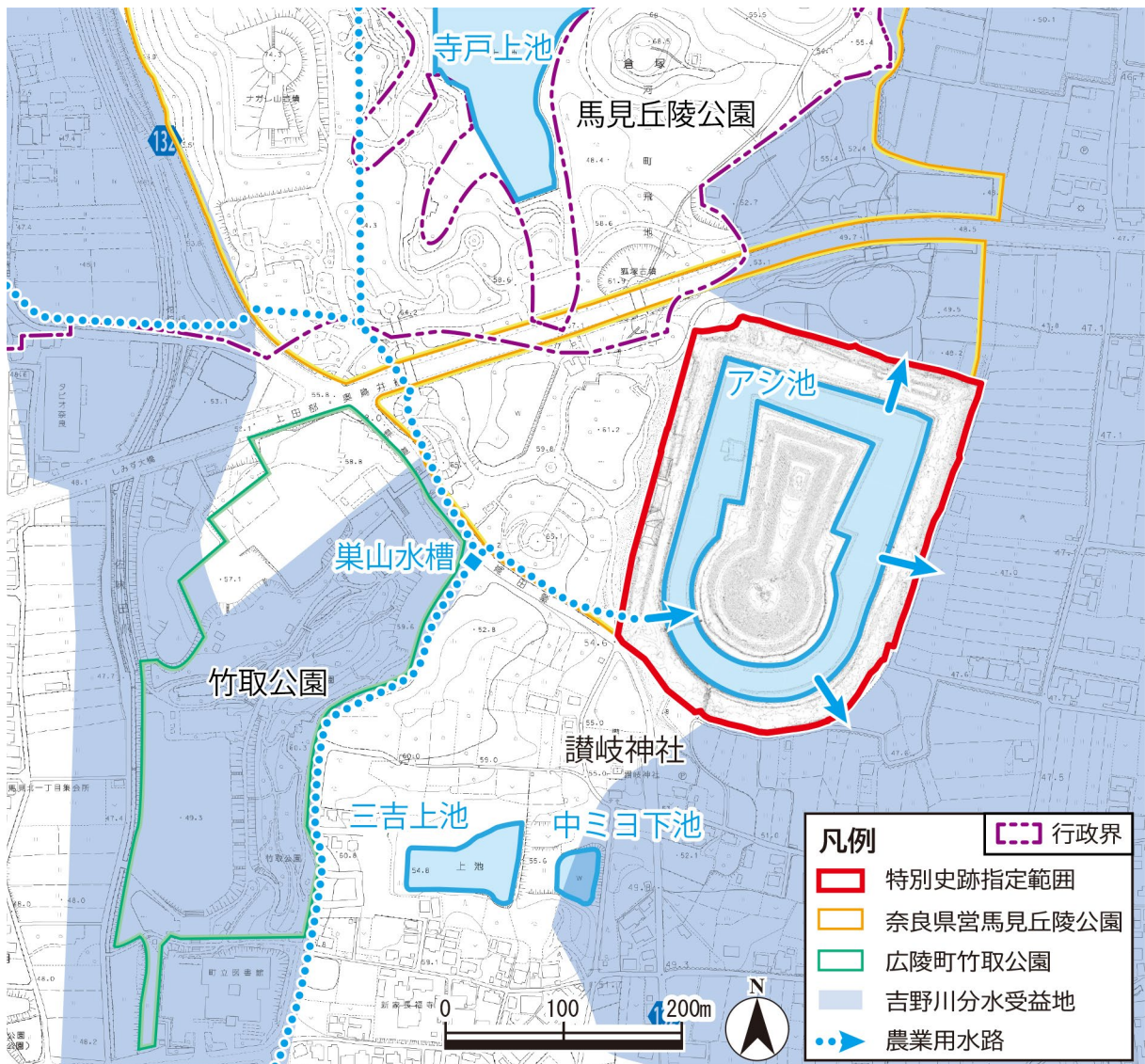


図 3-37 指定地及び周辺の土地利用状況図

4. 巢山古墳の公開・活用状況

(1) 指定地の公開状況

特別史跡巢山古墳は現在整備中のため、基本的には公開していない。

(2) 情報公開等の状況

広陵町文化財保存センターで、巢山古墳の出島状遺構から出土した家形埴輪・盾形埴輪等の様々な形象埴輪や、周濠北東角から出土した準構造船（喪船）を展示している。また同センターでは巢山古墳等の文化財の説明パンフレットや町内文化財と自然探訪マップ等を作成・配布している。広陵中央公民館等でも遺物を展示している。

巢山古墳の調査等の成果については、広陵町のホームページで公開している。また、デジタルアーカイブ構築事業で巢山古墳出土の埴輪の3Dデジタルデータ化を行っている。



図 3-38 出土埴輪 3Dデータ公開サイト：それぞれの画像を自由に回転し、多方面から観察できる

(三次元データ公開サイト URL https://sketchfab.com/koryo_bunkazaihozonka)

(3) 社会教育・学校教育等への活用状況

<学校教育への活用>

広陵町教育委員会は、地域のくらしやその変化を学習する小学校3年生を対象とした社会科副読本「わたしたちの広陵町」を作成。“町の歴史”として巢山古墳について、“町のしせつ”として広陵町文化財保存センターでの巢山古墳出土埴輪の展示も紹介している。

<社会教育への活用>

情報公開等の現状において前掲したように、社会教育施設である広陵町文化財センターにおいて、巢山古墳出土の埴輪等を展示している。

また、地域住民や町内の子どもを対象に、講座や講演会、広陵町文化財ガイドの会主催のウォーキングイベント等を実施してきた。

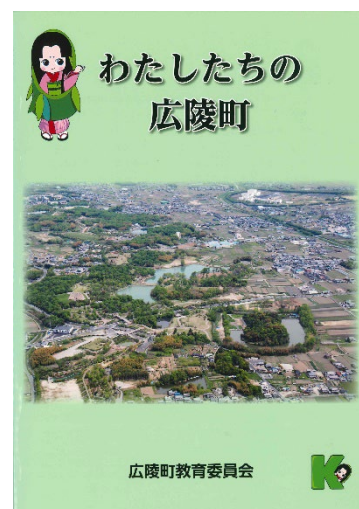


図 3-39 広陵町教育委員会の作成した社会科副読本

(4) 観光・地域振興への活用状況、地域連携の取組

<ほっかつ御墳印>

広陵町北隣の河合町から始まった『御墳印帖』プロジェクトが、周辺4町（河合町、広陵町、王寺町、上牧町）による“ほっかつ（北葛城）御朱印”として令和5年（2023）4月からスタートした。これは対象の古墳等を撮影して、御墳印を集めるというものである。このプロジェクトは各町のホームページで案内・紹介しているが、広陵町では該当サイトが無い状況である。

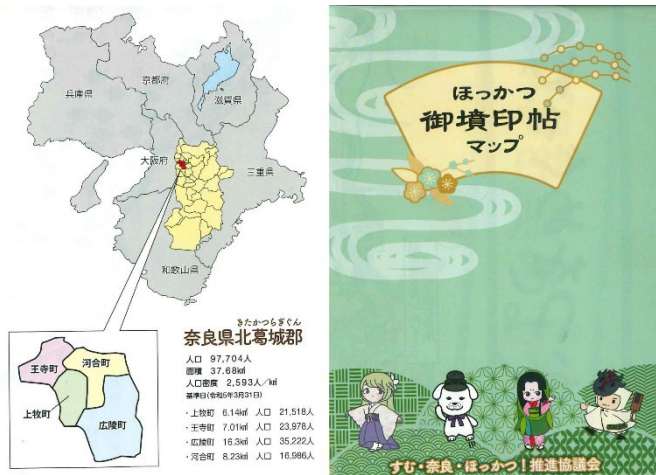


図 3-40 ほっかつ御墳印帖マップ（部分）



図 3-41 『ほっかつ御墳印』の広陵町の御墳印

<地域住民との連携>

広陵町内の文化財関連の住民等の組織としては、広陵町文化財ガイド（ボランティア）、広陵古文化会がある。広陵古文化会は昭和38年（1963）に発足した60年以上の歴史がある文化財保存団体で、巢山古墳の測量調査関連でも協力を得ている。現在は巢山の維持管理に参加している他、講演会・講座の開催、文化財関連の出版等を行っている。広陵町文化財ガイドは町の生涯学習課文化財保存室が主管する組織で、文化財保存室でガイドの募集、基礎研修等を行っている。